

自己評価報告書

学校関係者評価報告書

(令和7年度)

愛知産業大学三河高等学校

全日制課程

全 日 制 課 程

目 次

I	学校の現況	1
II	教学方針	
	(1) 私学の建学の精神	6
	(2) 本校の建学の精神	6
	(3) 本校の教育方針	6
	① 学習指導方針	6
	② 生活指導方針	6
	(4) スクール・ミッション	7
	(5) スクール・ポリシー	8
III	重点目標の達成及び改善方策	
	(1) 総 務	11
	(2) 教 務	13
	(3) 進学指導	14
	(4) 指 導	16
	(5) 渉 外	18
	(6) 学 年	19
	(7) 事務局	20
IV	学校評価の具体的取り組みや評価結果	21
V	保護者・生徒アンケート結果と評価	22

I 学校の現況

(1) 学校名

愛知産業大学三河高等学校

(2) 課程

全日制課程

(3) 所在地

〒444-0005

愛知県岡崎市岡町原山12-10

TEL : 0564-48-5211 FAX : 0564-48-5300

ホームページ : <https://www.mikawa.ed.jp>

(4) 沿革

- | | | |
|-------------|-----|-----------------------------------|
| 昭和58年(1983) | 2月 | 第1期工事で一般教室・職員室・視聴覚室等の本館（現A・B棟）が完成 |
| | 4月 | 三河高等学校開校、全日制課程普通科と電気科を設置 |
| | 4月 | 初代校長 戸田 保幸 先生が就任 |
| | 4月 | 校歌を制定、生徒会発足 |
| 昭和59年(1984) | 2月 | 第1回創立記念行事開催 |
| | 2月 | 第2期工事で体育館(恒徳館)・電気実習棟(現C棟)が完成 |
| 昭和60年(1985) | 2月 | 第3期工事で情報処理実習室を含む西館(現D棟)完成 |
| | 3月 | 南九州修学旅行実施 |
| | 4月 | 全日制課程に情報処理科（男女共学）と通信制課程を設置 |
| | 10月 | 第三種電気主任技術者（電験三種）試験 電気科1名合格 |
| | 11月 | 電気科 電気工事士 152名合格（全国高校第1位） |
| 昭和61年(1986) | 3月 | 三河高等学校同窓会発足 |
| | 4月 | 電気科 第三種電気主任技術者認定校に指定 |
| | 8月 | 電気科 工事担任者認定校に指定 |
| 昭和62年(1987) | 2月 | 東館（現E棟）完成 |
| | 4月 | 普通科男女共学に移行 |
| | 4月 | 情報処理科 第2種情報技術者試験に初合格者 |

- 5月 弓道場完成
- 昭和63年(1988) 10月 電気科 第三種電気主任技術者試験に27名合格 (全国高校1位)
5月 三河高等学校後援会発足 校歌を改曲
9月 電気科 第二種電気工事士試験に237名合格 (全国高校1位)
- 平成元年(1989) 4月 普通科を3コース (一般・特進・学特) 体制に移行
9月 電気科 第二種電気工事士試験に212名合格 (全国高校1位)
- 平成 4年(1992) 4月 情報処理科 システムコース・ビジネスコースのコース制を導入
11月 温水プール・研修棟完成
- 平成 5年(1993) 4月 第2代校長 日高 武雄 先生が就任
4月 三河高等学校創立10周年を迎える
4月 アーチェリー場(50m、30m)完成
- 平成 6年(1994) 2月 プール棟完成
11月 情報処理科 東海地区商業実務総合競技大会に初出場
- 平成 7年(1995) 3月 剣道部 全国高校選抜大会 女子団体 初出場
4月 校名を愛知産業大学三河高等学校に改称、制服変更
8月 アーチェリー部 全国高校総合体育大会 男子団体初優勝
- 平成 8年(1996) 3月 沖縄修学旅行実施
8月 第78回全国高等学校野球選手権大会 (甲子園) 初出場
8月 電気科 第三種電気主任技術者試験に14名合格 (全国高校第1位)
9月 電気科 第二種電気工事士試験に109名合格 (全国高校1位)
- 平成 9年(1997) 2月 アーチェリー部 世界選手権大会 日本代表に選出
8月 サッカー部 全国高校総合体育大会 (京都) 初出場
8月 電気科 第三種電気主任技術者試験に10名合格 (全国高校第1位)
12月 サッカー部 第76回全国高校サッカー選手権大会 初出場
- 平成10年(1998) 2月 後援会発足10周年記念「校歌碑」寄贈
10月 情報処理科 第1種情報技術者試験に初合格者
- 平成12年(2000) 3月 第72回選抜高等学校野球選手権大会 (甲子園) 初出場
3月 剣道部 全国高校選抜大会 男子団体 初出場
4月 第3代校長 合川 功 先生が就任
- 平成13年(2001) 3月 京都大学 1名合格
- 平成14年(2002) 3月 中国・沖縄修学旅行実施
4月 情報処理科 コース制から選抜クラス編制に変更
- 平成15年(2003) 4月 愛知産業大学三河高等学校創立20周年を迎える
4月 制服変更
4月 普通科3コースの名称を総合進路・特別進学・学力選抜に変更
8月 情報処理科 全国IT・簿記選手権大会に初出場 (団体7位)
- 平成16年(2004) 3月 東京大学 1名合格
- 平成17年(2005) 2月 F棟完成
4月 第4代校長 舟橋 謙二 先生が就任
4月 普通科総合進路コースにおいて希望進路別クラス編制を実施

- 平成18年(2006) 6月 沖縄・北海道修学旅行実施
3月 京都大学 1名合格
8月 アーチェリー部 全国高校総合体育大会 女子団体初優勝
- 平成19年(2007) 3月 京都大学 2名合格
9月 サッカー部 全国高校総合体育大会(佐賀) 出場
- 平成20年(2008) 3月 京都大学 1名合格 (3年連続 京都大学合格者輩出)
9月 情報処理科 全商検定試験1級5種目 1名合格
- 平成21年(2009) 4月 普通科 愛知産業大学との高大連携授業を開始
6月 沖縄修学旅行に一本化
7月 第45回献血運動推進全国大会にて厚生労働大臣表彰を受賞
- 平成22年(2010) 4月 第5代校長 杉浦 三雄 先生が就任
9月 電気科 エネルギー管理士試験 1名合格
- 平成23年(2011) 4月 普通科総合進路コースにデザイン系クラスを設置
4月 普通科特別進学コースをスポーツ特別進学クラス・学力特別進学クラスの2クラス体制に変更
6月 情報処理科 全商珠算電卓実務検定1級 クラス(C3A) 全員合格
8月 ソフトテニス部 全国高校総合体育大会(北東北) 団体初出場
- 平成24年(2012) 7月 ロンドンオリンピック アーチェリー女子団体銅メダル獲得
(卒業生:蟹江美貴)
8月 電気科 第三種電気主任技術者試験に3名合格(全国高校第1位)
8月 情報処理科 情報処理選手権全国大会で個人準優勝
9月 電気科 エネルギー管理士試験 1名合格
11月 情報処理科 全商珠算電卓実務検定1級 クラス(C2C) 全員合格
- 平成25年(2013) 4月 愛知産業大学三河高等学校創立30周年を迎える
4月 シャトルバスの運行開始
- 平成26年(2014) 4月 第6代校長 木村 誠一 先生が就任
4月 普通科進学校化へコース変更、制服変更
- 平成27年(2015) 10月 電気科 第二種電気工事士 クラス(E3D) 全員合格
- 平成28年(2016) 10月 情報処理科 情報セキュリティマネジメント試験 4名合格
12月 北部九州修学旅行実施
- 平成29年(2017) 10月 情報処理科 全商検定試験1級7種目 1名合格
10月 情報処理科 応用情報技術者試験 1名合格
11月 愛知県共同募金会より多年の共同募金貢献による感謝状を受ける
- 平成30年(2018) 1月 オーストラリア:アラダラハイスクールと姉妹校提携を結ぶ
2月 情報処理科33期生 ITパスポート試験 22名合格
4月 第7代校長 近藤 彰 先生が就任
8月 第100回全国高等学校野球選手権記念大会 22年ぶり2回目出場
11月 日本赤十字社より銀色有功賞を受賞
12月 修学旅行(台湾・沖縄・石垣島) 選択制実施
- 平成31年(2019) 2月 電気科 愛知県高等学校職業教育技術認定事業グランプリ受賞

- 4月 愛知工科大学・自動車短期大学と高大連携協定を結ぶ
- 令和元年(2019) 11月 情報処理科 全商珠算電卓実務検定1級 クラス(C2C) 全員合格
- 令和 2年(2020) 10月 情報処理科 応用情報技術者試験 1名合格
- 11月 文部科学大臣より産業教育発展・貢献の特別奨励賞を受賞
防衛大臣より自衛官募集協力に対する感謝状を受ける
- 令和 3年(2021) 12月 修学旅行(沖縄、広島・関西) 選択制実施
- 令和 4年(2022) 4月 第8代校長 竹治 玄造 先生が就任
- 9月 ボクシング部 第1回全日本女子ジュニア選手権大会LW級初優勝
- 10月 情報処理科 38期生 基本情報技術者試験 6名合格
- 令和 5年(2023) 4月 愛知産業大学三河高等学校創立40周年を迎える
- 令和 6年(2024) 1月 電気科 第二種電気工事士 クラス(E3C) 全員合格
- 4月 電気科 男女共学に移行
- 7月 恒徳館冷暖房完備
- 8月 アーチェリー部 全国高校総合体育大会 男子団体 優勝
- 令和 7年(2025) 7月 生徒机椅子更新(1,200セット)
- 8月 普通科 英検準1級 6名合格
- 8月 電気科 第三種電気主任技術者試験 7名合格
- 9月 就職指導科 就職内定率100%達成(16年連続)
- 令和 8年(2026) 2月 新ホームページ開設
- 3月 進学指導 名古屋大学医学部合格(国公立大学17名合格)
- 4月 第9代校長 玉腰 憲樹 先生が就任
- 4月 私立高校授業料・入学金無償化(所得制限なし) スタート

歴代校長

- 昭和58年 初代校長 戸田 保幸
- 平成 5年 第2代校長 日高 武雄
- 平成12年 第3代校長 合川 功
- 平成17年 第4代校長 舟橋 謙二
- 平成22年 第5代校長 杉浦 三雄
- 平成26年 第6代校長 木村 誠一
- 平成30年 第7代校長 近藤 彰
- 令和 4年 第8代校長 竹治 玄造
- 令和 8年 第9代校長 玉腰 憲樹

(5) 全日制課程の構成 (学則定員)

学 科 名	入 学 定 員	備 考
普 通 科	2 9 4 名	男女共学
電 気 科	1 2 0 名	男女共学
情 報 処 理 科	9 0 名	男女共学
合 計	5 0 4 名	

(6) 生徒数及び教職員数(令和7年5月1日現在)

生徒数

()内は女子生徒数

学 科 名	1 年 生	2 年 生	3 年 生	合 計
普 通 科	139 (26)	130 (35)	125 (35)	394 (96)
電 気 科	121 (1)	87 (0)	83 (0)	291 (1)
情 報 処 理 科	152 (51)	140 (42)	139 (40)	431(100)
合 計	412(78)	357 (77)	347 (75)	1,116(230)

教職員数

校 長	竹治 玄造	教 員	7 5 名
教 頭	玉腰 憲樹	非常勤	2 1 名
教 頭	黒柳 洋一	事務職員	1 2 名
		精神保健福祉士	1 名

Ⅱ 教学方針

(1) 私学の建学の精神

私立学校はどの学校でも創立するときには、こういう人間を養成したいという理想的な人間像を描いて出発するものです。これを「建学の精神」といいます。従って、各私学ともそれぞれ独自の建学の精神をもっており、特色ある教育をおこなっております。

(2) 本校の建学の精神

＜豊かな知性と誠実な心を持ち

社会に貢献できる人材を育成する＞

(3) 本校の教育方針

教育基本法に則り、学校教育法の定めるところに従って、大学・専門学校等の上級学校への進学を目標とする後期中等普通教育ならびに工業(電気)・商業(情報処理)に関する専門教育を実施します。

また、人格の向上を図るため、感謝の念に富み、礼儀正しく、誠実かつ積極的に努力する人材の育成を教育理念の基礎としています。

① 学習指導方針

勉強は自分のためにするものであるという、学習に対する積極性を養うため、“よく分かる授業”を心がけます。

教材を精選し、基礎的な内容を反復練習することにより、基礎力をつけると同時に「実力は努力から生まれる」をモットーに、やればできるという意欲を持たせ、学力の不足する生徒には補習授業を実施し、生徒の学力を全体的に底上げするように努めます。

進路別、習熟度別学級編制により、きめ細かな指導をします。

小学校及び中学校の過去9年間に学力差がついています。これに対応し、それぞれの生徒が持っている学力に応じた授業を行うことによって、学習の理解を深め、学力の向上に努めます。

② 生活指導方針

学力の高揚は大切なことですが、人間性の育成はもっと大切なことであると考えています。そこで「周囲の人びとから愛され、信頼される人間」としての素質を作るために別掲の「誓いの言葉」を毎朝唱和させ、報恩感謝の念が強く、義務と責任をわきまえた誠実な生徒を育成します。

挨拶、礼儀など躰(しつけ)教育に力を入れ、マナーのよい生徒を育成するよう“心の教育”に力を注ぎます。長い人生が健康に過ごせるよう、体力づくりに努めるとともに、クラブ活動を奨励し、明朗で、幅広い人間性を備えた人材の育成に努めます。

(4) スクール・ミッション

本校は、私立高校として、建学の精神に基づく学校教育を実践することにより、社会に貢献できる人材の育成を行う。

昭和 58 年の創立以来その建学の精神である「社会から喜ばれる知識・技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め科学技術、文化の発展に貢献する」に基づき、地域に根ざした産業教育、実務教育の充実を図ってきた。

平成 23 年に、「豊かな知性と誠実な心を持ち社会に貢献できる人材を育成する」に再定義された。

「社会に貢献できる人材を育成する」という教育理念を遂行するため、「豊かな知性を持つ人材の育成」及び「誠実な心を持つ人材の育成」を教育方針として教育活動を実践している。

具体的には、建学の精神を身近な言葉で表した『誓いの言葉』を毎朝唱和している。

誓いの言葉

私たちは父母のおかげで
勉学する機会が与えられているから
その期待にそむかず
一生に二度とこないこの時を
無駄にすることなく 勉学と修養に励み
社会から喜ばれる人間になります

この『誓いの言葉』は、父母・社会に対する報恩感謝の念を持ち、社会で有用な人材、21 世紀を支える人材となることを表している。

その実現のために、学校生活を通じて、『校訓』の実践と『月訓』を心掛けた教育を行っている。

校訓

感謝 礼儀 誠実 積極 努力

月訓

4 月…「高校生としての自覚」		
5 月…「遵法」	6 月…「誠実」	7 月…「努力」
9 月…「礼儀」	10 月…「積極進取」	11 月…「読書」
12 月…「感謝」	1 月…「希望」	2 月…「反省」

(5) スクール・ポリシー

【普通科】

① グラデュエーション・ポリシー

(育成を目指す資質・能力に関する方針)

＜このような生徒を育てます＞

- ・グローバルな視点で、異文化や歴史を尊重・理解し共生できる生徒
- ・自ら考え、問題解決しようとする姿勢を持ち、正しく判断する能力を養い、創造的な発想や向上心を有する生徒
- ・将来なりたい自分を実現するように努力し、夢や希望に向かって歩んでいける生徒
- ・SDGsに基づき持続可能な社会の実現に貢献できる生徒

② カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成及び実施に関する方針)

＜このような教育活動を行います＞

- ・英語力の向上を目指し、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく伸ばす
- ・学業と部活動とを高いレベルで両立させ、何事にも一生懸命集中して取り組む姿勢、忍耐力、協働力、社会力等を身につけ、豊かな人間形成を図る
- ・進学に対応したカリキュラムに加え、補習授業によるきめ細かな指導で、国公立大学や難関私立大学への進学を目指す
- ・学校行事を通して進んで行動することや、周囲の仲間を尊重し協働する力を身につけ、社会に貢献する精神を学ぶ
- ・ICT機器を使用し、よりわかりやすい授業を展開することにより、自ら考える動機付けをする
- ・愛知産業大学との高大連携講座やコンクールへの応募等、多様な学びの機会を積極的に取り入れ知的好奇心を育む

③ アドミッション・ポリシー

(入学者の受け入れに関する方針)

＜このような生徒を待っています＞

- ・明確な目標を持ち、学習や部活動に意欲的に3年間取り組むことができる生徒
- ・基本的な生活習慣を身につけ、何事にも熱意を持って取り組み、進んで行動できる生徒
- ・積極的にコミュニケーションをとるとともに、他者のアドバイスを謙虚に聞く姿勢を持ち、様々な価値観を受け入れ、互いの人格を尊重し差別やいじめを許さない生徒
- ・授業を大切にし、様々なことに興味、関心、疑問を持ち自立的に学ぶ意欲を持つ生徒

【電気科】

①グラデュエーション・ポリシー

(育成を目指す資質・能力に関する方針)

＜このような生徒を育てます＞

- ・電気技術、電子技術、情報通信技術に関する基礎学力を有する生徒
- ・電力技術、電気機器に関する専門分野の知識を有する生徒
- ・周囲と協力しコミュニケーションをとりながら、課題を克服しようとする生徒
- ・資格検定試験への積極的な挑戦により、卒業後も更なるスキルアップを目指す生徒

②カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成及び実施に関する方針)

＜このような教育活動を行います＞

- ・専門科目を通じて、電気技術・エレクトロニクス技術や情報通信技術・電気エネルギーの発電から活用までに必要な技術や各種機器の特徴など、基礎的な知識の習得を図る
- ・実習科目を通じて、実践的な技術力の向上と物事の本質を探究するための広い視野を育む
- ・資格検定指導を通じ、ジュニアマイスター顕彰及び高等学校職業教育技術顕彰の認定証受領を目指す

③アドミッション・ポリシー

(入学者の受け入れに関する方針)

＜このような生徒を待っています＞

- ・電気エネルギーの活用に必要な発電、変電、送電、配電などの技術に関心のある生徒
- ・エレクトロニクス技術に活用される電子技術やコンピュータや通信機器に応用される情報通信技術に関心のある生徒
- ・電気、電子回路の組立や電気工作などのものづくりに興味のある生徒
- ・電気工事士をはじめとした資格検定試験や部活動及び学校生活における諸活動に対し、積極的に取り組む生徒

【情報処理科】

①グラデュエーション・ポリシー

(育成を目指す資質・能力に関する方針)

<このような生徒を育てます>

- ・IT技術を身につけ、豊かな知性を持ち、リーダーシップを発揮して社会に貢献できる生徒
- ・労働人口の減少を補えるICT技術者の基礎を有する生徒
- ・既成技術をより人に優しく、万人に扱えるように改善できる生徒
- ・IT技術を利用し、人間の仕事をより軽減できるよう推進していく生徒

②カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成及び実施に関する方針)

<このような教育活動を行います>

- ・ICT機器のアプリケーションの仕組みを理解し、将来必要とされるプログラムを作るための基礎知識をPC・タブレット等で学び、作成技術を発表する
- ・情報処理・総合実践の科目を通じて、ワープロ、表計算、データベース、プレゼンテーションを学び、その技術を応用し、効率的な作業方法を考える
- ・プログラミング・課題研究の科目を通じて、人間の仕事をコンピュータに代替していく基礎を学び、機械がやるべき仕事を発見し、その機械に指示を出せる能力を養成する
- ・目標となる資格取得・部活動大会を設定し、PDCAサイクルを実践する

③アドミッション・ポリシー

(入学者の受け入れに関する方針)

<このような生徒を待っています>

- ・日本の生産効率向上をICT技術によって向上させる夢を持つ生徒
- ・人的資産を活用するため、人間の仕事をサポートするアプリケーション開発をしたい生徒
- ・次世代の子供達にコンピュータ技術を伝えることができる生徒
- ・コンピュータによる生活環境向上を目指す生徒

Ⅲ 重点目標の達成及び改善方策

評価方法

4段階にて各項目について各分掌教員にて評価する

教員評価	評価基準
4点	十分達成されている
3点	達成されている
2点	取り組まれているが、成果が十分でない
1点	取り組みが不十分である

総務（校務）

No	重点目標	年度末評価	職員評価
①	学校設備の管理、教育環境の維持のため、 営繕委員会と連携して、美化・営繕活動の推進を図る。	営繕委員会との連携のもと、美化・営繕活動を継続的に推進し、教育環境の維持・向上に寄与することができた。校内の環境整備に対する意識も徐々に高まり、安定した成果が見られた。今後は、より主体的な取り組みの促進や活動の工夫により、一層の充実を図っていきたい。	3
②	教育環境やHR設備の維持・管理の視点から、安全・安心・快適な学校生活のため、備品など整備が整いつつある環境について、使用方法の徹底を図る。	新しい生徒机・椅子への入れ替えに伴い、教育環境の充実が図られる中で、備品の使用方法の徹底に取り組んだ。しかし、全体への浸透や継続的な実践には課題が残り、十分な定着には至っていない。環境が整いつつある今こそ、運用面の工夫や指導体制の見直しを進めていく必要がある。	2
③	環境保全・経費削減のため、不要物品・廃棄紙の減少を図る。	環境保全と経費削減を目的に、不要物品および廃棄紙の削減に継続的に取り組んだ。整理・再利用の意識が徐々に浸透し、無駄の削減に向けた前進が見られた。今後は取組の定着とさらなる削減を目指し、具体的な工夫を重ねていきたい。	3
改善 方 策	美化・営繕活動や備品管理、不要物品・廃棄紙の削減については一定の成果が見られる一方で、取組の全体的な定着や主体的な関与には課題が残る。今後は、営繕委員会を中心とした役割分担の明確化と情報共有の充実を図るとともに、備品の使用ルールや環境保全の取組について継続的な周知・指導を行う。また、新しい机・椅子を含めた設備の適切な運用を通して、環境意識の向上と持続的な改善につなげていく。		評価平均
			2.7

総務（庶務）

No	重点目標	年度末評価	職員評価
①	【式典】入学式、賞状賞品授与式、卒業証書授与式の実施に向けて、早期より準備作業（要項作成など）を行い、滞りなく式典を実施できるように努める。	保護者の参列も年々増加しており、準備において大変な面もありましたが、全体としては滞りなく円滑に式典を実施することができました。	4
②	【行事】新入生説明会、保護者総会（進路説明会）の実施にあたり、円滑に実施ができるように努める。	入学生の増加に伴い、実施方法を検討し、やり方を変更する部分もありました。しかし、事前準備をしっかりとて、円滑な実施をすることができました。	3
③	【危機管理】防災（防犯）訓練・講習会（講話）について、関係部署と連携を図り、計画をして実施に努める。	訓練・講習会ともに実施し、生徒・教職員の防災に対する意識づけができた。	3
改善 方 策	式典では、学校の方針に基づき、滞りなく厳粛な式となるよう実施内容を検討し、準備を進めることができました。細かな改善点はあったものの、教職員の協力により、準備から片付けまでスムーズに行うことができました。 また、防災訓練・講習会では講師の方をお招きし、具体的な防災対策について説明を受けることで、防災意識の向上を図ることができました。しかし、訓練時だけでなく、日頃から防災意識を持って生活することが望まれます。		評価平均
			3.3

総務（入試広報）

No	重点目標	年度末評価	職員評価
①	体験会・学校説明会参加者 生徒 2,300人(昨年2,086人) 保護者 1,200人(昨年1,090)	【結果】目標達成 生徒 2,685人 保護者 1,426人 合計 4,111人	4
②	受験者・入学者 【受験者】推薦400人 一般1,000人 【入学者】推薦400人 一般 50人	【結果】目標達成 受験者 推薦 440人 特色 10人 一般 1019人 入学者 未 入学者 478人 (推薦440 特色10 一般28)	4
③	積極的広報活動推進 1.メディア露出 2.SNS、HP 3.イベントターゲット拡大	【結果】 1.メーテレ (Digった!) FM AICHI (トライーネ) 2.Instagram 更新微増 3.中2向けイベント実施 プチ体験会 継続 (新)5月実施 MIKAWA ENJOY FESTIVAL	3
改善 方 策	目指してきた入学者数420名が達成できた。ただ、国の政策である授業料無償化などの勢いを借りて入学者が増えたのであって、本校の評価が高まり増えたものだとはいえにくい。この入学者数を永続的にするには、校内変革が必要である。 入試広報としてできることには限りがあるが、入試広報のメンバーが中心となって来年度チーム担任制にも挑戦するため、生徒満足度が高まる変化に期待したいところである。 5・8・11・3月と体験会・説明会を実施した。5月については、今年度から新たに始めたものであり、3月については昨年度から実施したものになる。企画・運営については入試広報が中心となったが、参加者が増えることで規模が大きくなり、運営の負担が大きくなった。一部の教員に負担が集中しないことが今後も、充実した体験会・説明会を実施していく課題になると考える。	評価平均	
			3.7

教務（教務）

No	重点目標	年度末評価	職員評価
①	退学者の減少（30名を下回るようこまめに指導する）	全体で29名（1年生18名、2年生8名、3年生3名）の転退学となりました。	3
②	定期試験における欠点者数の減少（試験前の事前学習や学習支援教室を有効活用し、欠点者数の減少や年度末の単位認定試験受験者数の減少を目指す。）	63名（3年生で5名、2年生で34名、1年生で24名）が学年末成績で欠点となった。ただし、11名（2年4名、1年7名）が不登校等による進路変更予定者である。	2
③	ICT機器及びALの活用推進（全学年の生徒がタブレットを所持しているため、タブレットを有効活用し深い学びやアクティブラーニング（AL）を推進する。）	各々がタブレットを用いた授業展開やデジタル黒板等を利用してALを推進した。	3
改善 方 策	新型コロナウイルス感染症が流行して以来、無理に出席することを求めない風潮や過度なストレスに対応しきれない生徒が増えたため、転退学者が増えた。次年度よりチーム担任制を導入されるので改善が見込まれるものと思われる。 また、学習意欲の高くない生徒にも意欲が持てるような授業を展開し、試験得点を上げられる工夫をしていきたい。 その一環としてタブレットを活用することで個々のレベルに合わせた学習コンテンツを展開できるようにしていきたい。	評価平均	
			2.7

教務（進学指導）

No	重点目標	年度末評価	職員評価
①	国公立大学合格者 合格者数7名以上	国公立大学・防衛大学校合格者は17名であり、目標達成。名古屋大学医学部をはじめ、昨年度を大きく上回ることができた。	4
②	南山・愛知・名城・中京他 難関私大大学合格者数25名以上	南山・愛知・名城・中京、早稲田、立命館など合格者数は76名であり、目標を大きく上回ることができた。	4
③	進学クラス生徒進学率 4年制大学進学率75%以上	4年生大学進学率は現時点では64.9%である。	2
改善 方 策	①進学希望者の英検・漢検等資格取得奨励 ②3年Ⅰ・Ⅱ類の国公立大学等受験を控えた生徒への3学期学校行事の配慮 ③今年度同様Ⅰ類生徒に指定校推薦ではなく、一般受験を奨励 ④Ⅱ類生徒への進学指導強化 ⑤進学希望者への志望理由書、面接指導の徹底		評価平均
			3.3

教務（情報処理科）

No	重点目標	年度末評価	職員評価
①	資格取得 国家試験合格者10名以上。卒業時（3年生）検定試験2種類以上取得95%以上	「国家試験合格者10名以上」という目標を掲げ、授業内外での指導体制の充実に取り組んだ。放課後補習や過去問題演習、個別指導を通じ、受験に対する意識付けや基礎力の底上げは一定程度図ることができた。一方で、国家試験に挑戦する生徒数そのものが十分に確保できなかった点や、合格に必要な計画的学習を最後まで維持できなかった生徒が見られた点は課題である。	2
②	授業展開 ICTを活用した授業・授業以外の総合的活用を目指す。教員間のICT利用にともなう指導格差の減少を目指す。魅力ある授業の展開。わかりやすく楽しめる授業（知的好奇心の刺激、飽きさせない授業展開等）を提供する。	本年度もICT機器を活用した授業の展開を目指し生徒に飽きさせない授業展開を目標に掲げていたが、検定合格に向けた授業が全体の7割以上を占めていることにより、多くの教員の授業が例年と同じ形になっていた。	2
③	新しい情報処理科に向けて魅力ある体験入学の実施による広報活動の充実。専門家による授業連携によって生徒の学習機会の拡大、新しい科目内容への挑戦を見据えて教員のスキルアップなどをおこなっていく。	情報処理科における体験授業では、一部の教員に任せきりになってしまったり体験授業の内容が偏ったものになってしまった。	2
改善 方 策	検定対策に偏重した授業構成を見直し、検定学習を基礎としつつも、探究的・実践的な学習活動を意識的に取り入れる。プログラミング、データ活用、AI・情報モラルなど、新学習指導要領や社会的ニーズを意識した題材を取り入れ、「情報処理科ならではの学び」を実感できる授業展開を目指す。また、ICT活用については、得意な教員のノウハウを科内研修で共有し、授業の質の均一化と底上げを図る。 また、情報分野の技術進歩は速いため、教員自身の継続的な学びが不可欠である。外部研修や資格取得への参加を促すとともに、科内での情報交換・授業振り返りの機会を定期的に設ける。「個々の頑張り」に依存するのではなく、「チームとしての情報処理科」を意識した運営を進め、教育力・広報力の両面での底上げを図っていく。		評価平均
			2

教務（普通科）

No	重点目標	年度末評価	職員評価
①	各学年、クラス、成績レベルに合った進路指導を行う。総合的な探究の時間を通して、大学調査・研究活動を行い、進路目標の明確化を図る。	総合的な探究の時間を使って、効果的に進路指導ができた。教育マッチングを最適化させることが効果的な教育投資の要となるので、これからも推進していく。大学の推薦入試では、総合的な探究の時間の研究結果を用いて、志望理由書を作成し、大学合格に貢献した。	4
②	ベネッセ実力診断・基礎力診断における成績向上を目指す。アウトプット重視の教育活動を心がけ、小テスト等を通して知識の確認回数を増やし学力の定着を促す。	ベネッセの実力診断が学力の担保という観点において実質的に機能していないので、今後検討すべきである。また記憶定着を重視した教育指導を今後心がけていく必要がある。	3
③	進学希望者には英語検定に特化した検定指導も行う。昨年度から数学検定受検も据えた補習も実施している。就職希望者には、英語検定はもちろんのこと漢字検定など多くの検定試験にチャレンジさせる。	英語検定・漢字検定の補習を充実化させたことで、英検準1級6人合格など、多くの生徒が検定に合格することができた。	4
改善 方 策	特になし		評価平均
			3.7

教務（電気科）

No	重点目標	年度末評価	職員評価
①	卒業時第二種電気工事士免状保持者65%以上	卒業時第二種電気工事士免状保持者71.2%	4
②	高難度資格取得 第一種電気工事士30名以上、電験三種合格5名以上	第一種電気工事士37名合格、電験三種合格7名（3年生6名、2年生1名）	4
③	教材の整備、年度進行のiPad活用を進める	全教室にプロジェクタを設置完了し、iPadでの授業も展開されるようになり生徒にとって良い環境が整ってきた。まだまだ教員の研修不足であり更に自己研鑽・電気科内の情報共有に努める必要がある。	2
改善 方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・上位資格取得に向けた指導強化を図るため、電気科教員がチームで指導を行えると良いと考える。 ・iPadへの教員の研修がまだまだ不足であり、更に自己研鑽・電気科内の情報共有に努めることや活用を進め効率的にかつ理解しやすい授業作りが必要である。 ・近県の実績校を視察するなど事例研究し、本校にあった形で取り組むのも一つかと思う。 		評価平均
			3.3

教務（就職指導科）

No	重点目標	年度末評価	職員評価
①	本年度も就職率100%を目指す	本年度も就職内定率100%を達成。16年連続となった。また、求人倍率は13.3倍であった。	4
②	学校斡旋1次内定率90%以上を目指す	学校斡旋1次内定率93.1%を達成。売り手市場であるが、生徒の質も個性も多様化しており、就職指導も難しいのが現状である。	4
③	Handy進路指導室導入2年目。就職希望者全員がHandy進路指導室を使いこなして満足のいく就職を目指す。	Handy進路指導室導入2年目で ①アカウント発行のためのメールアドレスを登録（QRコードにて） ②取得したメールアドレスをHandyに登録 ③アカウント発行のお知らせメールを発信 ④受信したメールからパスワードを設定 以上の流れからHandy進路指導室を利用させているが、未登録・登録できない・追加登録等でスマホ・タブレットを使いこなせない生徒の指導が頻繁にあった。Handy進路指導室も日々更新しており、対応に追われた。	2
改善 方 策	Handy進路指導室については、生徒によってスマホ・タブレット等の扱いに慣れていない生徒も居れば全く操作できない生徒も居る。担当が就職指導室に全て頼らず生徒の把握に努めてもらうとともに理解・協力してもらうことが必要である。 上記のごとく、毎年求人倍率が増加しており、企業対応等全てにおいて3学年団・管理職の協力が不可欠である。企業対応や生徒対応（企業からの連絡通知等）等、3学年団および管理職に理解・協力を依頼。	評価平均	3.3

指導（生活指導）

No	重点目標	年度末評価	職員評価
①	校則の遵守 身だしなみの規定遵守・校内禁止事項の明確化・校則の定期的見直し・新制服体操服導入の取り決め準備・違反時の対応策強化	何度も同じ生徒が指導を受けたり、検査終了後に頭髪を変形させたりと今年度も問題が多かった。生徒会役員と協議し、生徒主体で守らせる意識を高めさせる必要を感じた。新制服などの取り決めはスムーズに実施できた。	3
②	SNS利用への指導 情報リテラシー教育・ネット上のマナーと倫理・いじめトラブル防止	SNS指導に関しては何度も繰り返し実施したが、安易に捉えやすく問題に発展するケースが多かった。	3
③	交通規則の遵守 安全な登下校の指導・ヘルメット着用の励行・公共交通機関でのマナー向上・地域との連携	交通安全講話を今年度は2回実施し一定の効果はあったように思われる。来年度から自転車の青切符導入など法の改正があるためより指導を強化したい。	3
改善 方 策	SNS講話や交通安全講話、さらには朝礼での指導など定期的な働きかけを来年度も実施する。 身だしなみ指導に関しては年に3回の定期指導を実施。担当が検査をし基準を徹底させ、指導科のみに任せないように全体での意識を高める。校則の見直しについては来年度も指導科で検討する予定。	評価平均	3

指導（生徒会）

No	重点目標	年度末評価	教員評価
①	①生徒会行事の改革 文化祭・予餞会の質向上と [Mika-1 グランプリ]の改革 「三河変わった！」を内外に示すことのできるように活動をする。	就業時間内に終わられるよう、早期より生徒会内での企画運営に着手させることで計画的に実行することができた。準備時間を事前に許可いただいたことでリハーサル含めて計画的に行うことができた。	4
②	②ボランティア活動の啓発 献血、募金活動の啓発、ペットボトルキャップ、プラタブ回収の推進、ボランティア活動へ参加をする。	今年度も、献血や募金で多くの協力が得られた。ペットボトルキャップ回収、プラタブ回収で表彰していただいた。	4
③	③業務分担の効率化 新体制となり、業務の引き継ぎのなかで内容を精査し、業務の削減、効率化を図る。	概ね順調に活動を終えることができた。また、生徒主体の生徒会活動を推進し、今年度は生徒会役員も非常に活発に活動できた。	4
改善 方 策	生徒会役員としての自覚を持たせるために、週に一度の生徒会活動日を設定し、定期的に指導することで役員としての自覚が芽生え、自主的に行動する役員が増加した。 生徒会役員の公約達成のためにアンケートを実施したり、全校生徒の前で呼びかけをするなどより生徒主体の活動を行うことができた。 三河高校全体でも変革の時期であるため、生徒会も同様に変革を進めていき、より生徒主体の活動、生徒会が魅力だと思われる状況を形成していく。		評価平均
			4.0

指導（部活動）

No	重点目標	年度末評価	職員評価
①	「戦績」昨年より向上、全国大会出場・入賞、西三河総合1位	全国大会出場に、アーチェリー部・水泳部・少林寺拳法部・柔道部・ボクシング部・剣道部と昨年より実績を伸ばした部が多数となった。	3
②	「生活指導」社会から求められる、応援される人材の育成	部活動内の組織がうまく構築されていない部がある。良くも悪くも顧問と生徒の信頼関係が生徒の人間形成に大きな影響を与えている。	2
③	「入学者数増」各部活動魅力向上努力、目標数100名	部活動奨学生数の勧誘を13団体で行い、77名の獲得となった。授業料無償化から新制度に改定となったが他校の動向も含めて今後の検討が必要である。	2
改善 方 策	若手教員の育成の中で、ベテランとのタッグが非常に重要となる。顧問の配置を後継者育成の観点から検討していきたい。また、部活動連絡会で部活動内の不満や問題を聴取する場を設け、部内の環境把握や改善に努めることで学校全体で部活動の強化を図る。 奨学金制度については、他校制度の情報収集や奨学金比率を見ながら検討をしていく。		評価平均
			2.3

指導（保健衛生管理）

No	重点目標	年度末評価	職員評価
①	学校保健活動において、自ら健康に関する幅広い知識と実践できる力を身につけさせる。	定期健康診断、保健室における健康相談活動、保健講話、生徒保健委員会を通して生徒の発達段階に応じた保健管理と保健教育を行った。「ほけんだより」をBLENDで配信し、ICTを活用した保健教育に取り組んだ。	3
②	生徒の心身の状態を日頃からの確に把握し、発達課題の早期発見・早期対応に努め、組織的に対応する。	関係する教員と連携を保ち、生徒が直面する健康課題に対し、保健室の機能を生かした教育活動を行った。感染症対策では、発生前の未然の防止と拡大防止に対しチームを組み、専門性を生かした取り組みができた。	3
③	生徒が相談しやすい保健室の環境作りに努める。	生徒のプライバシーに配慮した保健室運営に取り組んだ。生徒支援委員会では関係教員と連携し、生徒が抱える課題に対し早期対応と継続した支援に努めた。	3
改善 方 策	生徒たちの進路目標を達成するために最も大切なことは、自己の健康管理であることを学校保健活動を通して理解させる。生徒の心身の健康課題に対し、丁寧なアセスメント、救急処置を行い、教室復帰に向けた支援と対応、関係教員との連携につなげた健康相談活動を展開する。担任との密な情報交換から居心地の良い学校づくりを目指し、出席率の向上に努める。		評価平均
			3

渉外

No	重点目標	年度末評価	教員評価
①	①体験会・学校説明会参加者 生徒2,000人（昨年1821人） 保護者1,000人（昨年956人）	【結果】目標達成 生徒 2,241人 保護者 1,204人 合計 3,445人	4
②	②受験者・入学者 受験者 推薦400人（昨年388人） 一般1,000人（昨年904人） 入学者 450人（昨年412人）	【結果】目標達成 受験者 推薦 440人 特色 10人 一般 1,019人 入学者 推薦 450人 一般 28人 合計 478人	4
③	③中学校訪問・進路説明会・体験入学会・学校説明会を通して、各中学校との信頼関係をより深くする。	昨年に続き、入試広報担当者の話が好評であった。これが、体験入学会・学校説明会参加者増につながっている。	2
改善 方 策	私立高校の授業料・入学金の無償化により、今後さらに入学者増が見込まれる。特に普通科への希望者が増えると思われるので、体験入学会や学校説明会において、本校の普通科の魅力を最大限発信していく必要がある。 また、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類の選別方法も再考していく必要がある。		評価平均
			3.3

1 学年

No	重点目標	年度末評価	職員評価
①	転退学者10名以内	退学者 2名 転出者 16名 合計 18名	2
②	欠席率2%以内	欠席率 20.2%	2
③	進路決定に向けた意識の向上を図る。	6月9日(月) リクルート進路選択講話 10月20日(月) マイナビ自己理解講話 12月12日(金) さんぼう進路別ガイダンス 1月19日(月)、2月16日(月) リクルート進路ガイダンス 実施	3
改善 方 策	①転退学者数の抑制については転退学希望者に対し、年度末まで個別面談や説得を継続的に実施したが最終的に目標には届かなかった。転退学者の丁寧な把握と早期支援体制の強化を今後の課題としたい。②欠席率の改善については転退学希望者への対応に重点を置いた結果、年度末まで多数在籍する形になり、出席状況のフォローが十分にされなかった面がある。今後は並行して出席状況への支援を強化したい。③進路意識の定着については外部講師による講演会を年間4回実施。一年次から進路意識を高める取組を行い、生徒自ら進路を考える姿勢が定着しつつある。次年度も継続して続けていきたい。	評価平均	
		2.3	

2 学年

No	重点目標	年度末評価	職員評価
①	進路に向けた意識向上(基礎力診断テストD3ランクの撲滅・ジュニア・インターンシップへの積極的参加・SPI試験の実施)	①基礎力診断テストD3ランク推移 ○国語：4月27名→9月27名→1月38名 ○数学：4月20名→9月20名→1月29名 ○英語：4月101名→9月88名→1月92名 英語のD3ランク人数が若干減少し、比較的人数の少なかった国語、数学で微増となった。 ②ジュニア・インターンシップ 参加人数：106名(E科58名、C科48名) 1学年も含めて斡旋可能な限界人数に近い人数となる積極的な参加となった。 ③SPI試験 例年は2年生で2回、3年生で8回を実施しているが、今年度は、2年生で4回実施し、3年次での負担軽減を図った。	3.1
②	欠席率2.0%以内	年間欠席率1.7% (3月18日現在) 一部の不登校生徒が該当クラスの欠席日数を増やしたものの、学年全体としては、目標以内の欠席率に収まった。	3.5
③	転退学者5名以内	転退学者8名(3月末日の予定者を含む。) 1年次より欠席過多の生徒が2年次で精神疲労により限界を迎えたり、特定の学習科目との相性の不一致、問題行動による進路変更などが理由となった。	2.6
改善 方 策	日々、学力向上を目指した指導をしているものの、依然、学力の低い生徒もみられるため、今後も粘り強い指導が必要である。ジュニア・インターンシップへの参加については、学級担任からの呼び掛けが大きく影響するものであり、指導側のキャリア教育意識が問われる部分である。出欠状況については、少しのつまずきにより、不登校になる生徒が多い。無理して学校に通わなくてもよいという社会の風潮も指導を難しくしているが、安易な欠席、遅刻を許さないという教員側の姿勢は崩すことなく継続的な指導を行っていく必要がある。転退学者については、目標値を上回る人数となったが、その場の環境に順応するための忍耐力に欠ける生徒に対して、より繊細かつ心の裏側を覗くような高度な指導が必要であるように感じる。	評価平均	
		3.1	

3 学年

No	重点目標	年度末評価	職員評価
①	転退学者0	退学者1名 転学者1名 転籍者1名 特別指導者4名	2
②	希望進路実現 就職内定率100% 国公立大学・難関私立大学合格者数 前年比増	学校幹旋企業内定率100%達成 国公立大学合格者15名（前年比増）	4
③	姉妹校進学者増 愛産大・ELIC進学者増	愛産大6名 ELIC14名	2
改善 方 策	①の転退学者3名の中には、精神的なものや人間関係に起因するケースが見られたため、より多くの目で生徒支援する必要性を感じる。特別指導者についても人間関係のトラブルが見られるので、普段の生活から生徒の動向に注視することが重要と考える。 ②の希望進路実現に関しては十分達成できたものと考え。とくに、国公立大学合格者数は前年比増であることと、昨年度に引き続きⅡ類からの合格者輩出に関しては、多くの先生方のご尽力の賜と考える。 ③の姉妹校進学者増については、大学全入時代を迎えつつある昨今、生徒の目は多くの進学先に向けられる傾向が見られる。また、愛産大については、内部進学者に対する条件緩和と金銭的な支援の拡充が望まれている。しかしながら、姉妹校進学者増に関しては、Ⅲ類や電気科・情報処理科生徒に対して早期より内部進学の特典を伝えるよう次年度以降の申し送り事項としたい。 *数字はすべて3月18日現在のもの		評価平均
			2.7

事務局

No	重点目標	年度末評価	職員評価
①	教育施設設備の改善、改修を検討し、教育環境の向上を図る。（生徒用の机・椅子の入替、ICTラボ②PC機器入替、第2グラウンド棟のLED化）	教育施設設備整備を行い教育環境向上を行った。生徒机椅子更新事業(1,200セット入替導入)。ICTラボ③PC機器入替事業(高性能機器e-spots対応)、第2グラウンド照明LED化更新事業、ホームルームLED化事業を実施した。	4
②	高等学校等就学支援金の新制度に合わせてオンライン申請、入学時納入金の納付方法、授業料、奨学金などを検討する。	就学支援金の新制度に合わせて、授業料等学納金改正と行い、保護者の実質負担額の軽減を図った。奨学金制度を軽減型から給付型に制度改革を行った。	4
③	樹木の伐採等のキャンパス環境整備を引き続き行う。	樹木の伐採等（校舎・プール棟の間、弓道場周辺）のキャンパス環境整備を行った。	4
改善 方 策	教育施設設備による教育環境の向上を図った。 保護者の実質負担額の軽減のため授業料等学納金の改定を行った。 より一層の学業、人物ともに優秀な人材の育成を図るため、奨学金制度を従来の軽減方式から給付方式に制度を改定した。 樹木の伐採を実施し、景観美化に取り組んだ。		評価平均
			4

IV 学校評価の具体的取り組みや評価結果

Ⅲの評価項目の自己評価は、各項目において例年同様に2.0～4.0と幅があり、各部署で達成項目・未達成項目はさまざまであるが、学校としては1年間それぞれの部署で重点目標を意識しながら取り組むことが概ねできたと思われる。

【高評価なもの】

① 入試広報

「入試広報」を立ち上げ3年が経ち、体験入学会・相談会の評判が中学校に浸透し、来校者が3年連続で大幅に増加した。私立授業料無償化の影響もあり、入学者も大幅に増加した。

内容	人数	前年比
体験入学会・学校説明会	4,111人	130%(3,176)
受験者	1,469人	114%(1,292)
入学者数	478人	116%(412)

② 進学指導

名古屋大学医学部（看護）をはじめ、国公立大学17名合格、早稲田・立命館など難関私立大学76名合格など、目標を大幅に上回ることができた。

③ 資格指導

普通科は英検準1級6名、電気科は電験三種7名、第一種電気工事士37名とそれぞれ高難度な資格指導で成果を上げた。

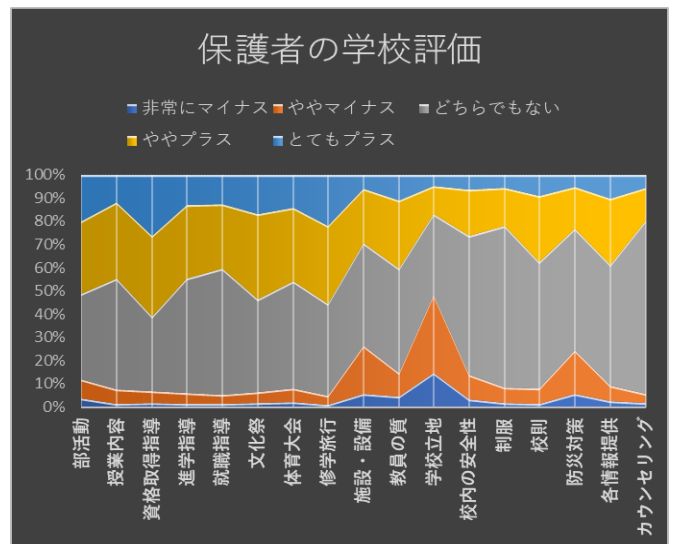
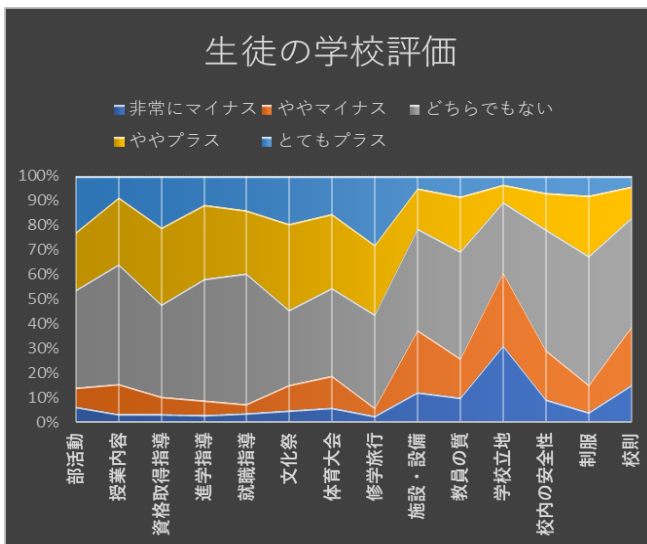
④ 就職指導

就職内定率100%16年連続達成。

拝啓 立春の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校の教育活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。さて、先月ご協力いただきました学校評価アンケート項目に関して、簡易分析を行いました。以下に報告をさせていただきます、今後の学校運営に役立てさせていただきます。貴重なご意見ありがとうございました。

○ 結果説明

下のグラフは、生徒と保護者の学校評価に関して、項目ごとの評価をグラフ化させたものです。グラフは下から、「非常にマイナス」、「ややマイナス」、「どちらでもない」、「ややプラス」、「とてもプラス」という項目で作成してあります。下位二項目を合算した山が高いほど、学校への評価が低い項目であり、上位二項目の谷が深いほど、評価が高い項目となっています。



① 学校行事に関して

生徒評価において、学校行事に関しては、40~50%程度の満足度が得られていることがわかる。今後「MIKA-1 グランプリ」や「文化祭」に関しても、一部楽しめていない生徒もいる結果であり、まだ改良の余地があると思われる。今後さらに生徒の意見を取り入れるなど、生徒主導による取り組みも更に強化し、青春を味わえる楽しい行事が増えるように努める。

② 教育内容と学校施設・設備に関して

学校の教育内容に関しても、概して保護者・生徒ともに、どの関連項目でも40%程度満足していることがわかる。「防災対策」に関しては、どのような対策もしているかを保護者に情報提供していくとともに、「校内の安全性」や「防犯対策」の強化も検討していく必要がある。一方で、「学校の立地」や「施設・設備」に関しては不満度が毎年高い。将来キャンパス検討委員会も立ち上がっているため、今回の結果を元に、施設の利便性を検討する。

③ その他

「資格取得指導」や「進学就職指導」に関して概ね満足いく結果が得られた。教育や教員の質を更に向上・安定化するためにも、組織ぐるみで仕組みを考えていく。